



シオン

118 編は 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。(1,29) と、最初と最後に感謝の同じ言葉を置いて歌っています。最初のこの言葉に続いて、賛美を唱える三つのグループの人々が登場しますので、118 編をこの人々の合唱として読みたいと思います。

イスラエルは言え。慈しみはとこしえに。(2) 君侯の言葉として。

アロンの家は言え。慈しみはとこしえに。(3) 祭司の言葉として。

主を畏れる人は言え。慈しみはとこしえに。(4) 民の言葉として。

君侯は 主はわたしの味方、わたしは誰を恐れよう。人間がわたしに何をなしえよう。主はわたしの味方、助けとなって／わたしを憎む者らを支配させてくださる。(6,7) と唱えます。君侯は外敵から民を守る王、家臣、将軍らです。彼らは、戦いの不安、恐怖、戦慄、残酷、無残を幾度体験したことでしょう。祭司は 人間に頼らず、主を避けどころとしよう。(8) と、民は 君侯に頼らず、主を避けどころとしよう。(9) と唱えます。

10-14 節は君侯の思いが歌われます。国々はこぞってわたしを包囲する 幾重にも包囲する 蜂のようにわたしを包囲する と、その厳しさ、恐怖を述べていますが、主の御名によってわたしは必ず彼らを滅ぼす(12) と、主を信頼し、激しく攻められて倒れそうになったわたしを／主は助けてくださった。主はわたしの砦、わたしの歌。主はわたしの救いとなってくださった。(14) と感謝しています。

15-16 節は祭司の思いが歌われます。御救いを喜び歌う声が主に従う人の天幕に響く。主の右の手は御力を示す。(15) 祭司は神の救いの力である 主の右の手 を賛美し、天幕 ので歌い続けます。

18-19 節は民の思いが歌われます。民の現実 主はわたしを厳しく懲らしめられたが／死に渡すことはなさらなかった。(18) という過酷のものであっても、死ぬことなく、生き長らえて／主の御業を語り伝えよう。(17) との思いに導かれています。

19-21 節は祭司が 正義の城門を開け／わたしは入って主に感謝しよう(19) と、正義の城門 として主の神殿を示し、入ります。神殿を示し、神殿で仕えることこそ祭司の務めです。これは主の城門／主に従う人々はここに入る(20) と、主は祈りを聞き、救いを与えてくださった と感謝を捧げます。

22-25 節は民の信仰告白です。家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。これは主の御業／わたしたちの目には驚くべきこと。(22) この言葉を主イエスが引用され、驕る者ではなく、神の御心に適った者がすべてを支える掛け替えのない基礎の存在となると教えておられます。価値が低いと見なされた者が主に救われ、喜び日が与えられたことは 主の御業 としか言いようがありません。民は 今日を喜び祝い、喜び躍ろう。どうか主よ、わたしたちに救いを。(24) と賛美します。

26-28 節は祭司の言葉です。特に 祝福あれ、主の御名によって来る人に。わたしたちは主の家からあなたたちを祝福する。(26) は祭司らしいと感じます。主を賛美するための捧げものをも求めます。

『讚美歌 21』は 152「みめぐみふかき主に」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-08-06> を挙げています。これはジュネーブ詩編歌をそのまま取り入れたものです。この曲は人気があり、その他の詩編歌にも適用されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=vdNqvluaSN4&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=118>